

小河滋次郎 社会事業家。日本の監獄学の草分けで権威となり、退官して事業を推進、現在の民生委員制度の原型も。

おがわけじろう

8月18日政変 1863 = 信濃国上田の金子宗元の次男に生まれ、

のち小河家の養子となる。

明治維新・・1868 = 5歳 :

学問のすすめ1872 = **9歳** :

明治6年政変 1873 = 10歳 :

明治14年政変1881 = **18歳** :

秩父事件・・1884 = 21歳 : 東京専門学校卒業、ドイツに留学し、

帝国大学始・1886 = 23歳 : 帰国して、内務省警保局に入る。

帝国憲法発布1889 = 26歳 :

帝国議会始・1890 = **27歳** :

足尾鉞毒始・1891 = 28歳 : ***司法省監獄課長となり**、

日清戦争始・1894 = 31歳 :

日清戦争終・1895 = 32歳 : **欧米の監獄状態の視察に出**、

子規句歌革新1898 = 35歳 : **帰国**。

Bushidou・・1899 = **36歳** :

日露戦争終・1905 = 42歳 :

満鉄発足・・1906 = 43歳 : **法学博士となり**、

アライ 創刊・1908 = **45歳** : **清国政府獄務顧問に招かれ、法典起草に参加するなど、日本における監獄学の草分け・権威となるが、進歩的な思想は受け入れられず、在野の留岡幸助などに近づき、民間社会事業を知ったことから**、

大逆事件判決1911 = 48歳 : ***帰国後、退官し、社会問題・監獄問題の研究に専念、国立感化院の創立にも参加**、

明治天皇没・1912 = 49歳 : **名著「救血十訓」を著わし、社会事業に指針を与える**。

大正政変・・1913 = 50歳 : ***大阪府知事大久保利武の招きに応じて、大阪に社会事業協会を興し、その指導者となる。当時大阪は日本の商工業の中心で、貧困者も多かったが、同時に近代的市民社会の意識も高く、民間社会事業が盛んに行われ、これら民間社会事業の連絡調整の必要をとき、研究会を開き、機関誌を発行する**。

ロシア革命・1917 = **54歳** : **林市蔵知事が赴任後も、囑託の位置にとどまる**。

本格政党内閣1918 = 55歳 : **米騒動が大阪の地にも拡がり、世情騒然とななかで、かねてあためてきた新しい社会事業を実現しようとし、林知事の決断によって方面委員制度が生まれた。この方面委員制度は、その前年に創設された岡山県済世顧問制度とともに現在の民生委員制度の原型となる**。

原敬首相暗殺1921 = 58歳 :

***その後も各地の方面事業の指導にあたるうち**、

護憲三派圧勝1924 = 61歳 : 日本生命済生会の常任理事となる。

治安維持法・1925 = 62歳 : **病没した**。

著書はほかに「社会事業と方面委員制度」「監獄学」などがある。